

京都府工業用水道事業経営レポート ～概要版～

作成趣旨

- 長田野工業団地への給水開始から既に40年以上が経過し、老朽化に伴う施設の更新負担の増加が見込まれる中、健全な経営と安心安全な給水体制の両立を維持していくためには、中長期的な視点から長田野工水の経営を考えることが必要。
- 受水企業との契約を更新する平成30年4月に向け、今後の更新・耐震化事業や料金のあり方についての検討に資するため、現在の経営状況及び今後の事業運営の見通しや課題を示す「京都府工業用水道経営レポート」を策定するもの。

レポートの概要

1. 経営の現況

- 責任水量制のもと、安定した給水収益によりH27年度まで黒字基調であった。
- 更新・耐震化事業の進捗により費用が増加傾向にあり、資金余力も低下。

2. 今後の事業運営の見通しと課題の抽出

- アセットマネジメント手法を用い、おおむね10年間に見込まれる投資額の見通しと、これを実施した場合の収支見通しや料金単価をシミュレーション

今後見込まれる投資見通し (H31~40)		実施した 場合	料金シミュレーションの結果	
25.8億円	浄水場・場外施設の老朽化対策		(10.4億円)	H30~: 27円/m ³
	管路の老朽化対策・耐震化		(12.6億円)	H35~: 33円/m ³
	電源喪失への対策		(2.8億円)	※借入金の活用等、一定の条件で試算

⇒ 料金負担等の見直しと、急激な料金上昇を避けるための投資額縮減の必要性を示す

3. その他の経営安定化をめぐる課題

- 料金負担のあり方に関する論点
 - ①契約水量の見直し ②減量・撤退負担金の導入 ③契約期間の見直し(3年→5年)
- 経営安定化に向けた取り組み
 - 地元市との広域連携や受水企業との連携強化を図っていく